

原価計算問題集

解答用紙

練習問題 1 - 4

- 工場の運転資金として必要な，銀行借入金にたいする支払利息
- 工場の運動会において，授与する賞品の購入費用
- 会社の役員に支払われる賞与金
- 本社建物の減価償却費
- 新製品発表会に必要なお茶代

練習問題 1 - 8

(単位：万円)

製造間接費

間接材料費	()	[()]	()
間接労務費	()	[()]	()
間接経費	()		
	()		()

仕掛品

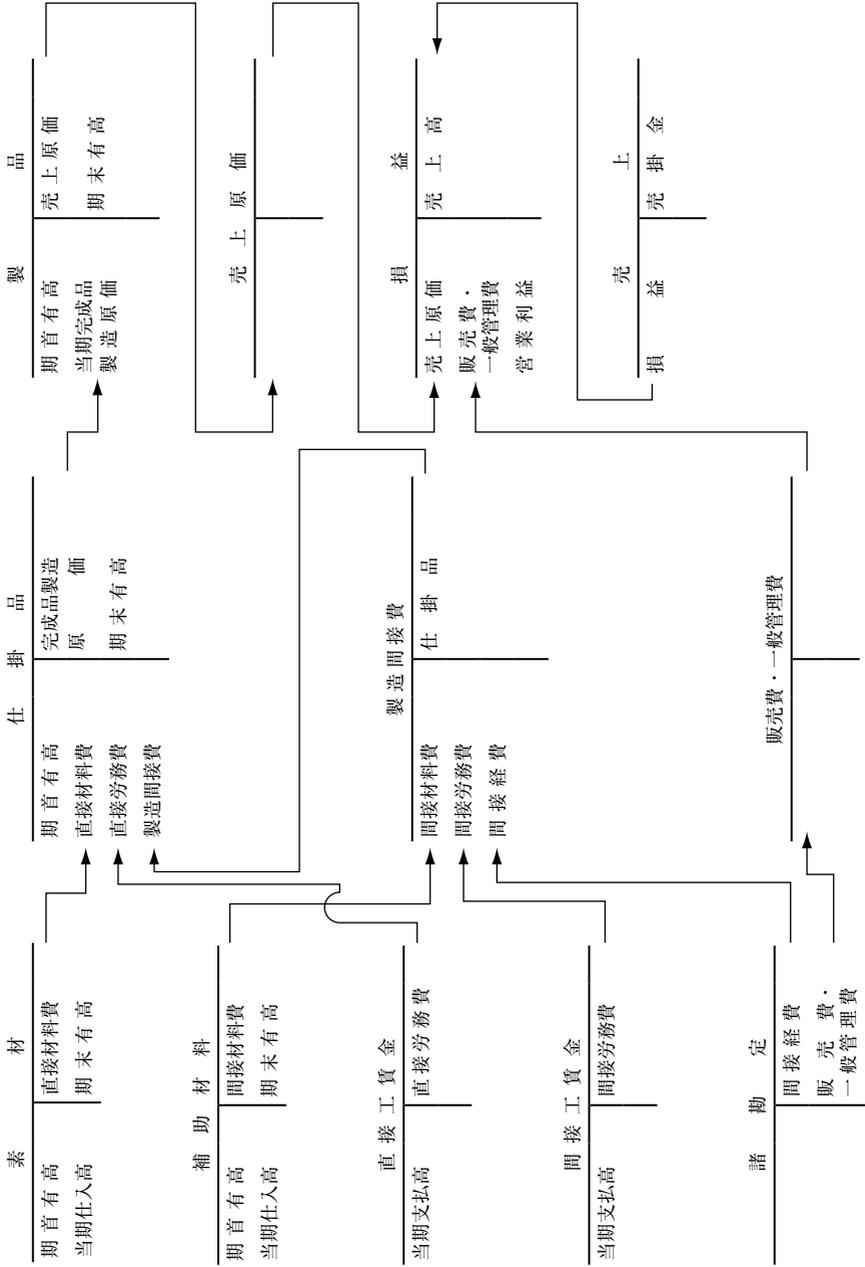
期首有高	()	[()]	()
直接材料費	()	[()]	()
直接労務費	()	期末有高	()
直接経費	()		
製造間接費	()		
	()		()

損益計算書

売上高		10,469
売上原価	()	
[()]	()	
売上原価計	()	()
売上総利益		()
販売費	()	
一般管理費	()	
販売費・一般管理費計	()	()
営業利益		()
営業外収益		()
営業外費用		()
経常利益		()
特別利益		()
特別損失		()
税引前当期純利益		()

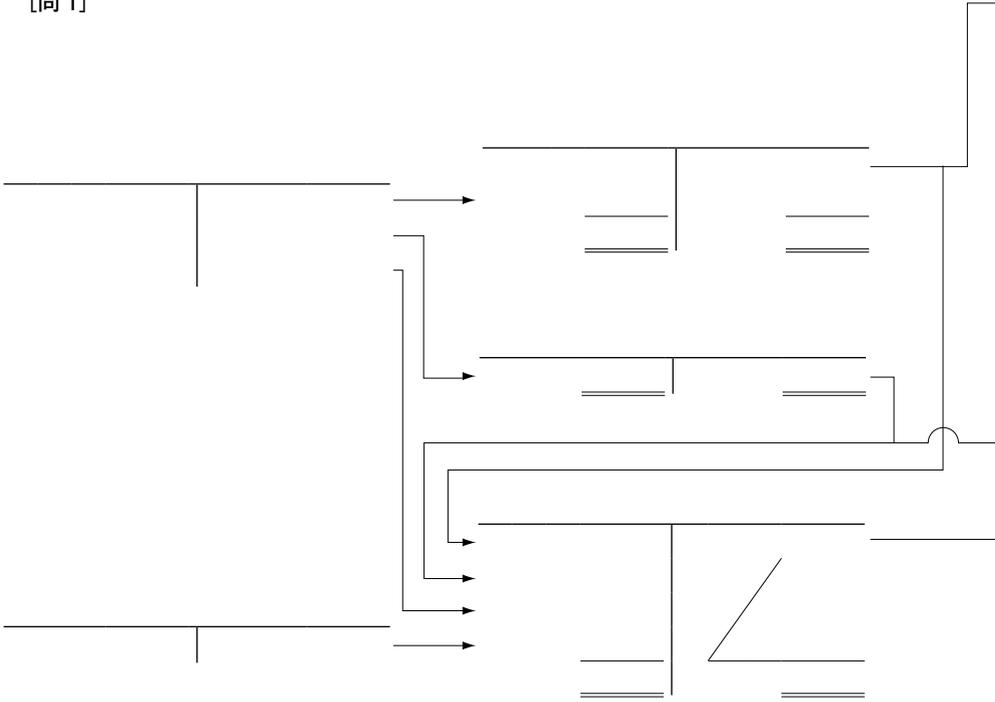
練習問題 2-1

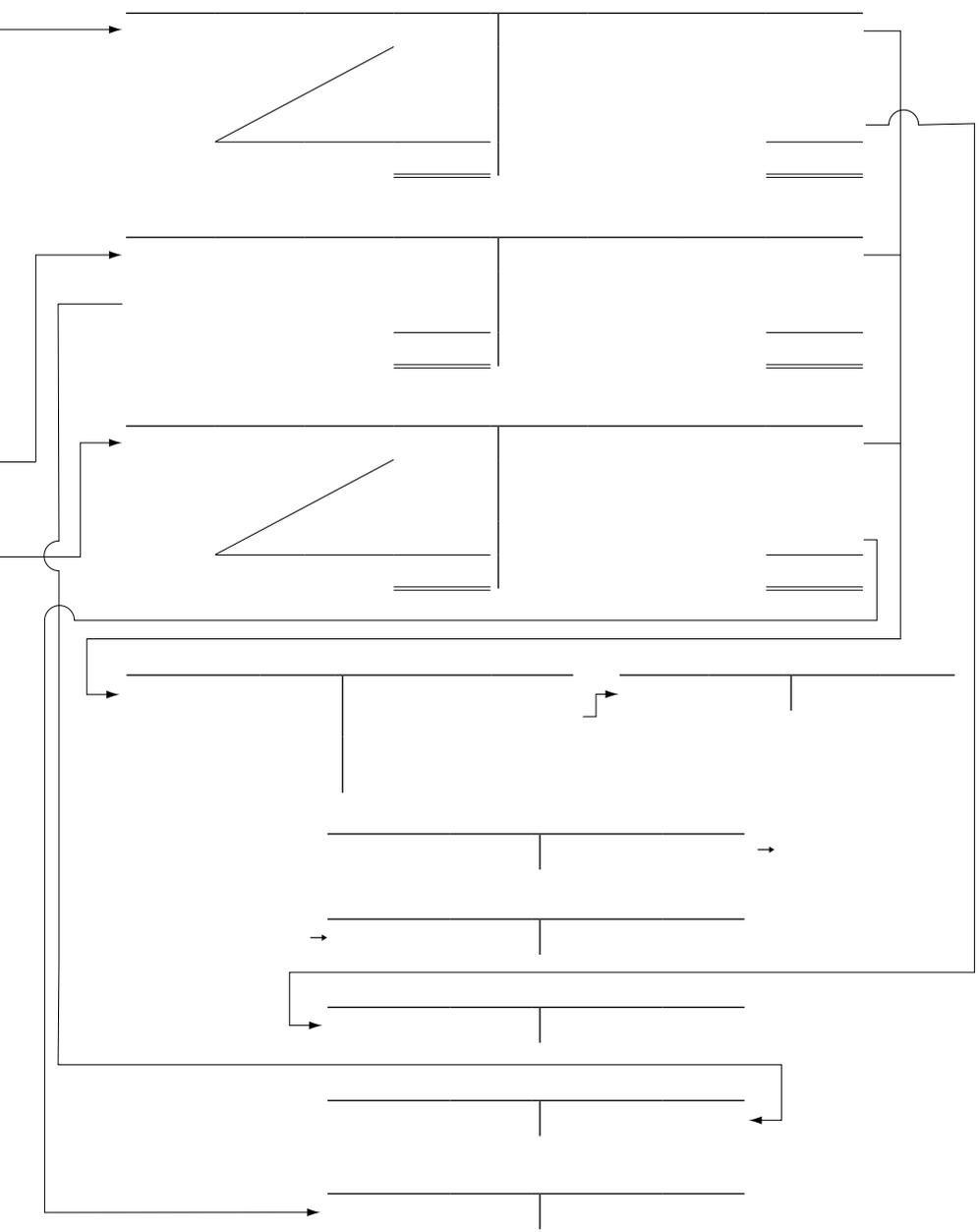
(勘定連絡図)



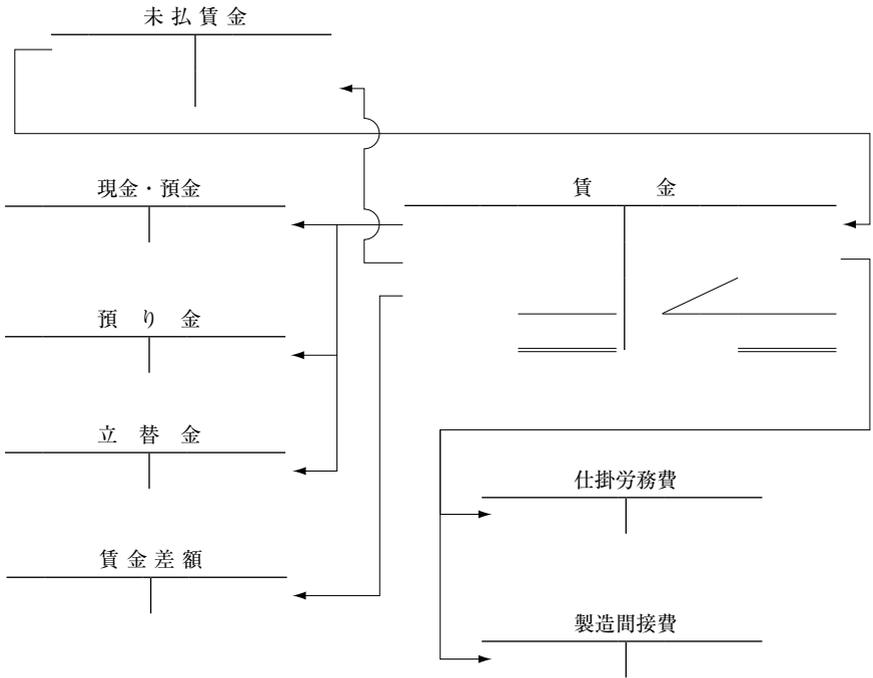
練習問題 3 - 1

[問 1]





練習問題 4 - 8



練習問題 4 - 10

(1) (a) = 円 (b) = 円

(2)

製造間接費

実際発生額	81,700円	予定配賦額	<input type="text"/> 円
		配賦差異	<input type="text"/> 円

練習問題 4 - 11

(単位：円)

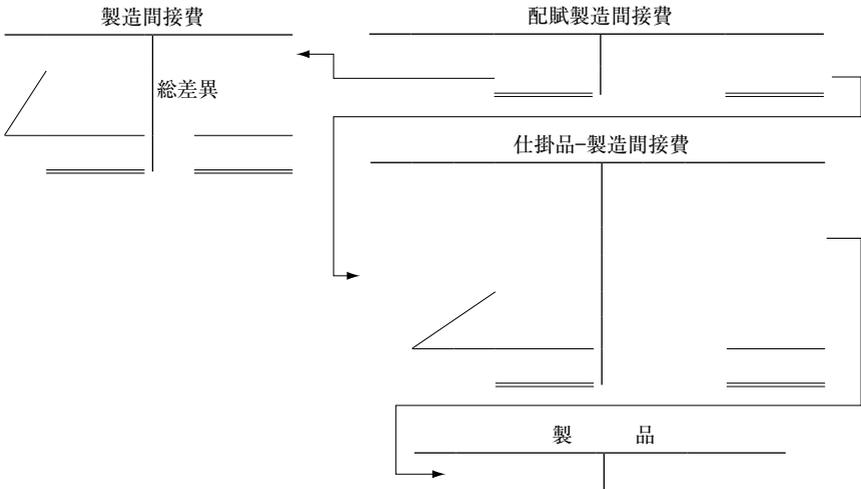
取引	仕 訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

練習問題 4 - 12

(イ) 実際の生産能力基準の場合

[勘定連絡図]

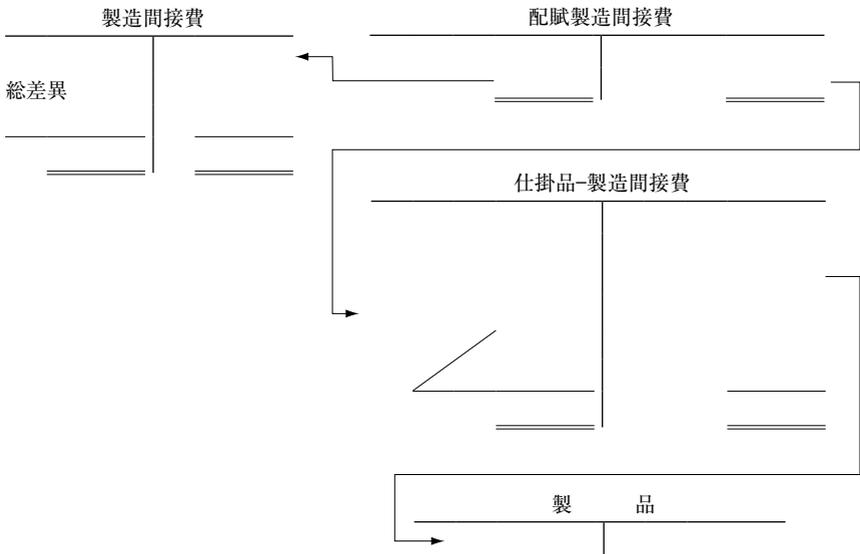
(単位：円)



(ロ) 平均操業度基準の場合

[勘定連絡図]

(単位：円)



練習問題 5 - 2

1. 相互配賦法（要綱の相互配賦法）

補助部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		I	II	甲	乙	丙
部門個別費						
部門共通費						
部門費合計						
第1次配賦						
甲						
乙						
丙						
第2次配賦						
甲						
乙						
丙						
製造部門費						

2. 階梯式配賦法

補助部門費配賦表

(単位：円)

費目	合計	製造部門		補助部門		
		I	II	甲	乙	丙
部門個別費						
部門共通費						
部門費合計						
丙						
乙						
甲						
製造部門費						

練習問題 5 - 3

補助部門費配賦表

(単位：円)

費 目	配賦基準	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
			切削部	組立部	動力部	修繕部	工 場 事務部
部 門 費 合 計		1,140,000	500,000	400,000	100,000	80,000	60,000
工 場 事 務 部 費							
修 繕 部 費							
動 力 部 費							
製 造 部 門 費							

練習問題 5 - 4

補助部門費配賦表

(単位：円)

	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
		切 削 部	組 立 部	材 料 倉 庫 部	動 力 部	工 場 事 務 部
部 門 費	1,700,000	656,689	677,736	118,375	199,680	47,520
第 1 次 配 賦						
工 場 事 務 部 費						
動 力 部 費						
材 料 倉 庫 部 費						
第 2 次 配 賦						
動 力 部 費						
材 料 倉 庫 部 費						
製 造 部 門 費						

練習問題 5-5

組立部 製造間接費 予算・実績比較表 ××年××月 (単位:万円)

費目	70%における予算許容額			実績	差異
	固定費	変動費	合計		
補助材料費					
燃料費					
工場消耗品費					
消耗工具器具備品費					
間接工賃					
給料					
福利施設負担額					
機械減価償却費					
建物減価償却費					
機械保険料					
建物保険料					
修繕料					
旅費交通費					
事務用消耗品費					
第1次集計費計					
補助部門費配賦額:					
工場事務部費					
動力部費					
材料倉庫部費					
補助部門費配賦額合計					
製造部門費合計					

練習問題 5 - 6

(a) 製造指図書別製造原価総括表(×年6月)

	# 1002	# 1004	# 1005	# 1006	# 1007	# 1008	# 1009	合計
5 月 末 合 計	円 1,201,000	円 520,000	円 653,000					円 2,374,000
直 接 材 料 費								
直 接 労 務 費 :								
第 1 製 造 部 門								
第 2 製 造 部 門								
第 3 製 造 部 門								
直 接 経 費								
製 造 間 接 費 配 賦 額 :								
第 1 製 造 部 門								
第 2 製 造 部 門								
第 3 製 造 部 門								
6 月 末 合 (累) 計								
備 考	6月10日 完 成	6月15日 完 成	6月25日 完 成	6月20日 完 成	6 月 末 現 在 仕 掛	6月30日 完 成	6 月 末 現 在 仕 掛	

(3) (ロ)

	就業時間数	賃金手当額	1 時間当たり 実際平均賃率	実際賃率による 直接労務費額	直接工間接 時間労務費
第 1 製 造 部 門	1,500 時間	183,000 円			
第 2 製 造 部 門	1,700 〃	170,000 〃			
第 3 製 造 部 門	1,650 〃	239,250 〃			
合 計					

(ハ)

	第 1 製 造 部 門	第 2 製 造 部 門	第 3 製 造 部 門	合 計
間 接 材 料 費	120,000 円	130,000 円	115,000 円	365,000 円
直 接 工 間 接 時 間 労 務 費				
そ の 他 の 間 接 労 務 費	280,000 〃	270,000 〃	300,000 〃	850,000 〃
間 接 経 費	750,000 〃	800,000 〃	500,000 〃	2,050,000 〃
合 計				

(b) 原価差異総括表 (×年6月)

	各製造指図書直課額 または配賦額	実 際 額	原 価 差 異
直接材料費			
直接労務費:			
第1製造部門			
第2製造部門			
第3製造部門			
直接経費			
製造間接費:			
第1製造部門			
第2製造部門			
第3製造部門			
合 計			

(c) (※印のついた科目は、解答者が自ら記入すべき相手科目である。)

製 造		製 造 間 接 費	
前月繰越 2,374,000	売上原価	材 料	製 造
材 料	※	賃金給料	
賃金給料		経 費	
経 費		※	
製造間接費			

材料価格差異		賃 率 差 異	
前月繰越 60,000	※	※	前月繰越 4,000
※			※

製造間接費配賦差異	
前月繰越 120,000	※
※	

練習問題 5-7

(A) 製造指図書別製造原価要約表 (1989年11月) (単位:千円)

	#701	#702	#703	#704	#705	#706	合計
10月末合計	680	450	-	-	-	-	1,130
直接材料費							
直接労務費							
切削部							
組立部							
製造間接費配賦額							
切削部							
組立部							
合計							

(B) 原価計算関係勘定

(注) [] には相手勘定科目名または翌月繰越を, () 内には金額 (単位:千円) を記入し, 各勘定を締切りなさい。使用できる相手勘定科目名は, 買掛金, 材料, 賃金・手当, 製造間接費および製品とする。

		仕 掛 品	
前月繰越	1,130	[]	()
[]	()	[]	()
[]	()		
[]	()		
	()		

材料受入価格差異		賃 率 差 異	
前月繰越	10	[]	()
[]	()	[]	()
	()		

製造間接費配賦差異	
[]	()
[]	()

練習問題 6-2

(1) 平均法

総合原価計算表

昭和 59 年 6 月 (単位: 円)

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品原価	10,200	1,805	12,005
当月製造費用	220,800	174,195	394,995
合計			
差引: 月末仕掛品原価			
完成品総合原価			
完成品単位原価			

(2) 後入先出法による月末仕掛品原価合計 = 円

練習問題 6-3

工程別総合原価計算表

昭和 59 年 11 月 (単位: 円)

	第 1 工程			第 2 工程		
	原料費	加工費	合計	前工程費	加工費	合計
月初仕掛品原価	5,800	950	6,750	36,900	11,900	48,800
当月製造費用	300,200	98,050	398,250		175,000	
合計						
差引: 月末仕掛品原価						
完成品総合原価						
完成品単位原価						

練習問題 6-4

工程別総合原価計算表 昭和 60 年 11 月 (単位:円)

	第 1 工 程			第 2 工 程					
	製 品 X			製 品 Y			製 品 Z		
	直 接 材料費	加工費	合 計	前工程費	加工費	合 計	前工程費	加工費	合 計
月初仕掛品原価	118,000	38,200	156,200	—	—	—	—	—	—
当月製造費用	602,000	361,800	963,800						
合 計	720,000	400,000	1,120,000						
差引: 月末仕掛品原価				—	—	—	—	—	—
完成品総合原価									
完成品単位原価									

練習問題 6-5

月次損益計算書 (単位:円)

売 上 高	()
売 上 原 価	
直接材料費	()
直接労務費	()
製造間接費予定配賦額	()
小 計	()
製造間接費配賦差異	()
売上原価合計	()
売上総利益	()
販売費および一般管理費	
変動販売費	()
固定販売費および一般管理費	()
販売費・一般管理費合計	()
営業利益	()
(注) () 内に、計算した金額を記入しなさい。	

練習問題 6-6

(1) 総合原価計算表 (単位：円)

	数 量	A 材料費	B 材料費	加 工 費	合 計
月初仕掛品	200個(1/2)	7,800	—	1,900	9,700
当月投入	1,000	45,000	29,700	20,100	94,800
投入合計	1,200	52,800	29,700	22,000	104,500
差引：月末仕掛品	300 (1/3)	()	()	()	()
完 成 品	900個	()	()	()	()
完成品単位原価		@()	@()	@()	@()

(2) 月次損益計算書 (単位：円)

売 上 高	()
売 上 原 価	()
売 上 総 利 益	()
変 動 販 売 費	()
固 定 販 売 費・一 般 管 理 費	()
営 業 利 益	()

練習問題 6-8

仕掛品 - 工程 A		仕掛品 - 工程 B	
期首棚卸高	35,000円	期首棚卸高	
原料費	750,000	期末棚卸高	
労務費	403,500		
製造間接費	336,250		
仕掛品 - 工程 A		製 品	
期首棚卸高	137,100円	期末棚卸高	
労務費	292,100		
製造間接費	304,800		
仕掛品 - 工程 A			

練習問題 6 - 12

〔第1工程〕

(1) 月末仕掛品原価 = 円(2) 完成品総合原価 = 円(3) 完成品単位原価 = 円

〔第2工程〕

(1) 月末仕掛品原価 = 円(2) 完成品総合原価 = 円

(3) 完成品単位原価

(a) 月初仕掛品完成分 = 円(b) 当月着手完成分 = 円(c) 加重平均単位原価 = 円

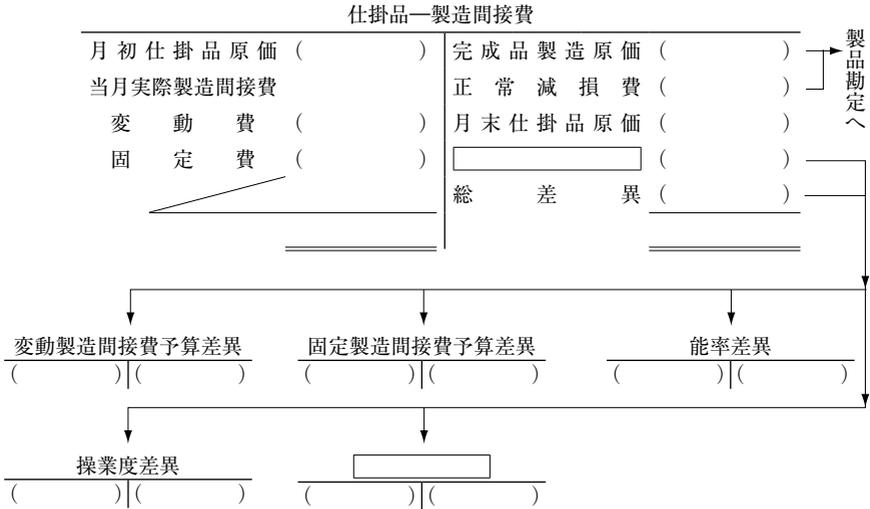
練習問題 7-6

1. 下記の□のなかに、適切な数字または文字を記入しなさい。

(a)=第□法 (b)=第□法 (c)=□

2. 製造間接費関係勘定連絡図

下記の□のなかに適切な名称を、また借方または貸方の()のなかに計算した金額を記入しなさい。(単位：円)



練習問題 8-3

[問1] 19×1年度におけるA, B両製品の、損益分岐点の販売量 = □個

[問2] 19×2年度の、税引後総資本経常利益率18%の目標を達成する

(a) 税引前年間目標経常利益額 = □円

(b) Aの年間目標販売量 = □個

Bの年間目標販売量 = □個

練習問題 10 - 6

(A) 6月の月末仕掛品原価総額

(A - 1) 全部原価計算を採用した場合 = 円

(A - 2) 直接原価計算を採用した場合 = 円

(B) 月次損益計算書 (単位: 円)

(B - 1) 全部原価計算の損益計算書

売 上 高 全部原価計算の営業利益
--

(B - 2) 直接原価計算の損益計算書

売 上 高 直接原価計算の営業利益 (C) 固定費調整 全部原価計算の営業利益
--

練習問題 10 - 7

[問題 1]

[問 1] a = 万円 b = 万円 / 時

[問 2] a = 万円 b = 万円 / 時

[問題 2]

[問 1] 損益分岐点の販売量

ST 製品 = 台 DX 製品 = 台

[問 2] 目標営業利益を獲得する販売量

ST 製品 = 台 DX 製品 = 台

[問題 3]

[問 1] 最適セールス・ミックス

ST 製品 = 台 DX 製品 = 台

[問 2] 条件変更後の最適セールス・ミックス

ST 製品 = 台 DX 製品 = 台

練習問題 11 - 1

予定損益計算書 (単位：円)

	<u>7月</u>	<u>8月</u>
売上高		
変動売上原価		
変動製造マージン		
変動販売費		
貢献利益		
固定費		
製造		
販売・一般管理		
固定費計		
営業利益		
支払利息		
経常利益		

19×1年 予定貸借対照表

(単位：円)

	7月末	8月末
流動資産		
現金		
売掛金		
製品		
原料		
流動資産計		
固定資産		
土地		
建物・設備		
固定資産計		
資産合計		
流動負債		
買掛金		
借入金		
流動負債計		
固定負債		
資本		
資本金		
利益準備金		
剰余金		
資本計		
負債・資本合計		

練習問題 12 - 1

[問 1] 月間の原価予想額 = 円 + 円 / 枚 × ピザ製造・販売量

[問 2] 月間の損益分岐点販売量 = 枚

[問 3] ピザ投資案の年間投資利益率 = %

[問 4] 年間投資利益率が 21.6% になる月間のピザ販売量 = 枚

[問 5]		新宿店	渋谷店
ピザ投資案導入前	投資利益率	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %
ピザ投資案導入後	投資利益率	<input type="text"/> %	<input type="text"/> %

[問 6] (注) ①, ②, ③, ④, ⑤は, 不要な文字を消しなさい。

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| ① <input type="text"/> 増加, 減少 | ⑥ <input type="text"/> % |
| ② <input type="text"/> 増加, 減少 | ⑦ <input type="text"/> 万円 |
| ③ <input type="text"/> 採用する, 採用しない | ⑧ <input type="text"/> 万円 |
| ④ <input type="text"/> 採用する, 採用しない | ⑨ <input type="text"/> 万円 |
| ⑤ <input type="text"/> 有利, 不利 | ⑩ <input type="text"/> 万円 |

練習問題 13 - 1

(注) 計算した各種差異には、プラスまたはマイナスの記号をつけなさい。

大阪営業所差異分析表 1991年6月 (単位:万円)

(1) 予算営業利益	<input type="text"/>
(2) 売上価格差異	<input type="text"/>
(3) 売上数量差異		
1) 市場占拠率差異	<input type="text"/>
2) 市場総需要量差異	<input type="text"/>
売上数量差異計	<input type="text"/>
(4) 売上高差異 [(2) + (3)]	<input type="text"/>
(5) 標準売上原価数量差異	<input type="text"/>
(6) 標準売上総利益差異 [(4) + (5)]	<input type="text"/>
(7) 変動販売費予算差異	<input type="text"/>
(8) 変動販売費数量差異	<input type="text"/>
(9) 固定販売費予算差異	<input type="text"/>
(10) 販売費差異計 [(7) + (8) + (9)]	<input type="text"/>
(11) 合計:実績営業利益 [(1) + (6) + (10)]		<input type="text"/>

練習問題 14 - 1

(注) 下記の 内に、該当する文字または数字を記入し、高い、低いおよび不利、有利のいずれか不用のものを消しなさい。

[問1] この問題を解決するもっとも適切な原価は 原価である。

[問2] A案のほうが、B案よりも原価が 万円 $\left\{ \begin{array}{l} \text{高い} \\ \text{低い} \end{array} \right.$ ので、A案のほうが $\left\{ \begin{array}{l} \text{不利} \\ \text{有利} \end{array} \right.$ である。

[問3] 部品Xの年間必要量が 個以上ならば、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{A案} \\ \text{B案} \end{array} \right.$ のほうが有利である。

[問4] A案のほうが、C案よりも原価が 万円 $\left\{ \begin{array}{l} \text{高い} \\ \text{低い} \end{array} \right.$ ので、A案のほうが $\left\{ \begin{array}{l} \text{不利} \\ \text{有利} \end{array} \right.$ である。

練習問題 14 - 2

[問 1] 内製か購入かの問題を解くための原価計算目的は、である。

(注) 上ののなかに該当する原価計算目的の番号を記入しなさい。

[問 2] (1) 部品 A-12 の 1 個当たりの変動費 = 万円

(2) 月間の固定製造間接費 = 万円

[問 3] 部品 A-12 の総需要量が個を超えるならば、

$\left\{ \begin{array}{l} \text{内製} \\ \text{購入} \end{array} \right\}$ が有利である。
内製, 購入のどちらでもよい。

(注) 該当する文字を○で囲み, 不要の文字を消しなさい。

[問 4] (1) 部品 A-12 の総需要量が 4,500 ~ 5,500 個の範囲にあるかぎり、

$\left\{ \begin{array}{l} \text{内製} \\ \text{購入} \end{array} \right\}$ が有利である。
内製, 購入のどちらでもよい。

(注) 該当する文字を○で囲み, 不要の文字を消しなさい。

(2) 部品 A-12 の総需要量が 5,500 個以上であって、

内製のコストと購入のコストが等しくなる総需要量 = 個

[問 5] 甲案 (部品 A-12 を内製する案) のほうが、乙案 (部品 A-12 を購入し、部品 M-34 を内製する案) よりも

コストが 万円だけ $\left\{ \begin{array}{l} \text{高い} \\ \text{低い} \end{array} \right\}$ ので $\left\{ \begin{array}{l} \text{甲案} \\ \text{乙案} \end{array} \right\}$ のほうが有利である。

(注) 該当する文字を○で囲み, 不要の文字を消しなさい。

練習問題 15 - 4

[問 1] 利率 10%，4 年間にわたる年金の年金現価係数 =

[問 2] 法人税の影響を考慮せず、旧機械を売却処分し、新機械を購入する場合の
正味現在価値 = 万円

[問 3] 法人税の影響を考慮しつつ、旧機械を売却処分し、新機械を購入する場合の
正味現在価値 = 万円

[問 4] 法人税の影響を考慮しつつ、旧機械の売却処分を考えずに、旧機械をそのまま使用する場合の正味現在価値 = 万円

[問 5] [問 3] で計算した新機械の正味現在価値 - [問 4] で計算した旧機械の
正味現在価値 = 万円

したがって新機械に取り替える方が $\left\{ \begin{array}{l} \text{有利である。} \\ \text{不利である。} \end{array} \right.$

(不要の文字を消しなさい。)

[問 6] ① = 法

② = 万円

③ =

練習問題 16 - 1

[問 1] 19×1 年度末における建物と設備の

減価償却費の合計 = 百万円

[問 2] 19×2 年度末における

キャッシュ・フローの合計額 = 百万円

[問 3] 投資終了時の正味回収額 = 百万円

[問 4] この投資の正味現在価値 = 百万円

したがってこの投資は、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{有利な投資} \\ \text{不利な投資} \end{array} \right.$ である。(不要な文字を消しなさい。)

[問 5] この投資の内部利益率 = %

練習問題 17 - 1

① = ② = ③ = 万円

④ = ⑤ = ⑥ = 万円